

「おおけやき」では、上毛新聞のジュニア俳壇・ジュニア詩壇・青春短歌に掲載された本校児童の作品をご紹介します。

# 詩の部

(九・十月掲載)

朝顔

六年

横沢あかね

へびのようにうねうねと  
そこらじゅうに巻きついて  
波のように  
庭の中をおおっていく  
うちはもうすぐ朝顔に  
のっとられそうだ

妹ほしいな

四年

西山 結月

妹ほしいな  
妹ほしいな  
と心で思ってた  
なんでもないの  
なんでもないの  
弟も弟も  
赤ちゃんなら  
なんでもいい  
だけどお母さんがいった  
お兄ちゃんにいった  
遊んでもらって結月は  
幸せだね  
わたしも思った

流れ星

五年

深津しおり

夜に星をみた  
あ 流れ星だ  
でも 「流れ星だ」ていつの間にか  
きえてっっちゃう  
ねがいごといわなくちゃ  
えっと えっと・・・あ  
ずーっとずーっと流れてほしいな  
言いきるまで



こっせつ

二年

みなかわはるか

たのしくあそんでいたら  
ほねがおれた  
ないた  
びょういんにいった  
しろいほうたいくさい  
かゆくつかゆくてもういやだ  
しろいほうたいいつとれる  
がまんできない  
はやくおもいきりあそびたい

アイス

五年

山岡 稟空

アイスは夏にかかせない  
アイスがないと暑くて  
だらけてしまう  
でもアイスがあると  
気持ちシャキーンとする  
ただアイスを早く食べないと  
アイスがとけてきて  
手がベタベタになってしまう  
いちどはとけないアイスの家に  
住んでみたい

ぼくはおにいちゃん

四年

斉藤 尊

ぼくはおにいちゃん  
だけどパパもママも  
ぼくをおにいちゃんよばない  
ぼくはぼく  
そういわれているみたいで  
うれしいな  
ぼくはおにいちゃん  
だけどおにいちゃんよばない  
うまくしゃべれなかった時は  
「はける」とよび  
大きくなったら  
「たける」という

一才がいの弟

なんでかな  
なぜか小さく見えてかわいいんだ  
おはだすべすべ  
今でも赤ちゃんみたい  
ぼくと弟 ずっとなかよくしていたいな



